

## 意見検討結果一覧表

（案名： 新たな県立高等学校再編計画後期計画（案） ）

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果（県の考え方）	決定への反映状況
1	計画全般	様々な地域の特色を生かそうとご努力がうかがえ、嬉しく思います。	1	後期計画においては、県立高校の現状と課題を踏まえ、地域における学校の役割を重視した魅力ある学校づくりに向けて、2つの基本的な考え方に基づいて高校再編に取り組みます。	C（趣旨同一）
2	計画全般	統合や新設準備については、前期計画の検証を必ず行い、進める場合は進めること。	1	前期計画については、計画に基づいた着実な再編の推進を重視しながらも、地方創生に向けた地域の取組状況や中学校卒業者数の状況等を把握し、地域の実情等を踏まえて取り組みました。前期計画の取組による各ブロックの状況等を踏まえ、後期計画を策定しました。	C（趣旨同一）
3	I-3	少子化にあっても、特別な支援を要する児童・生徒の人数が増加している。特別支援学級に在籍している児童・生徒の多様化、多層化等に対応できる高校を各地域に存続させることが重要と考える。	1	前期計画においては、様々な課題を抱えた生徒への適切な指導や支援体制の充実が必要であることとし取組を進めてきましたが、後期計画においても継続していきます。	C（趣旨同一）
4	I-4	学校では、通常の学業としての授業だけではなく <b>Face to Face</b> のリアルな人間関係のもとに行われる活動、学びがあると思います。学校というチームとしての組織、校内での切磋琢磨などがあることが望ましく、ある程度の規模（1学年2～3学級）を確保することは生徒、保護者とも望んでいると思います。	2	後期計画期間中においては、統合を予定している学校以外の学校の計画的な学級減は行わないこととしており、学びの選択肢を確保するとともに、多様な進路希望を実現できる教育環境の整備を図ることとしています。1学級校を含む小規模な学校においても、教育内容の充実を図ります。	C（趣旨同一）
5	I-4	少子化が進み、様々な支援を要する生徒もいる状況で、1学級の定員を減らし、30人学級、20人学級にしても学校を維持すべき。	2	後期計画期間中においては、各地域の1学級校についても可能な限り維持することとしています。なお、1学級の規模については、法律に基づき40人を標準とすることとしています。国に対して教職員配置基準の見直しについて要望を継続しているところです。	C（趣旨同一）

様式第1号（第9関係）

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果（県の考え方）	決定への反映状況
6	I-4	国の現行制度に捉われない県独自の少人数学級を導入する新たな判断基準を構築すべき。個別最適化された、きめ細かな教育の実践を望む。	15	県立高校の約半数を占める小規模校においては、1学級の平均生徒数が30人程度と、実質的に少人数による学級運営を行っている状況であり、生徒の進路希望や習熟度等に応じた教育が実施されています。なお、1学級の規模については、法律に基づき40人を標準とすることとしていますが、国に対して教職員配置基準の見直しについて要望を継続しているところです。	C（趣旨同一）
7	I-5	学校統合により、通学が困難になる場合には、何らかの支援（通学費や寮費の補助等）が必要。	3	高校再編計画による統合により、公共交通機関による通学の費用が大幅に増加する場合や、通学が困難になる場合には、他の地域との公平性も考慮したうえで、通学支援策を導入していくこととしています。	C（趣旨同一）
8	I-5	通学等への支援について検討される際は、学校所在地の意見だけでなく、在籍する生徒の地元の意見も聞いてほしい。それらの意見を踏まえた上で、支援については是非とも格差が生じないものになることを強く希望いたします。	1	具体的な通学支援策については、地域の意見を伺いながら、各地域の状況等を踏まえ、検討・実施することとしています。	C（趣旨同一）
9	I-5	県全体としての進学・通学に関する総合的な支援について新たな制度を作ることも検討すべき。	2	高校への進学・就学に係る支援については、高等学校就学支援金制度や高校生等奨学給付金制度等を整備しており、本再編計画では、統合によって通学が困難になる場合等において、公平性を考慮しながら通学支援策を導入することとしています。	C（趣旨同一）
10	II-1	保留になっている遠野地区と久慈地区の統合を先に行うべき。	2	前期計画において統合を延期していた遠野地区の統合については、入学者数の状況等に鑑み、計画から除外することとしました。久慈地区の統合の取扱いについては、令和3年度入試の状況等により判断することとしています。	C（趣旨同一）
11	II-1	遠野高校と遠野緑峰高校の統合に関しては、これまでどおりの二校の存続をお願いいたします。将来の地域を担う人材の育成を果たす役割を考えていただき小規模でも両校の存続をお願いいたします。	8	前期計画において統合を延期していた遠野地区の統合については、入学者数の状況等に鑑み、計画から除外することとしました。	C（趣旨同一）

様式第1号（第9関係）

番号	意見箇所	意見	類似意見件数（件）	検討結果（県の考え方）	決定への反映状況
12	II-1	遠野地区において、どうしても生徒数の減少が進む場合は、両校の良いところを維持し、「再編の方向」に記されているようなことを実現できる、「新しい学校」を作るといった時期が来るとも思われます。その場合は、遠野ならではの人材育成を目指す、全く新しい高校を作っていただくことも案と思われます。	1	前期計画において統合を延期していた遠野地区の統合については、入学者数の状況等に鑑み、計画から除外することとしました。	C（趣旨同一）
13	II-1	教育委員会は、前期計画において宮古地区（宮古商業高校と宮古工業高校）の統合を決めた経緯を現場に説明するべき。	2	前期計画における宮古商業高校と宮古工業高校の統合については、統合検討委員会等を通じて説明を行いました。また、後期計画では、地域からの提言等を踏まえ、宮古商工高校と宮古水産高校の統合計画を修正し、同一校地内に両校の新校舎や施設設備等を一体的に整備のうえ、両校の連携を通じた専門教育の充実や学校活動の活性化を図ることとしました。後期計画の推進に当たっては、地域等への情報発信に努めます。	D（参考）
14	II-2	前期計画で行ってきた取組（実施結果）は、国が示してきた全国均一の教育制度に沿ったものであり、岩手県の実情に合った内容とは思えません。結局のところ、人数構成での統合・改編がほとんどだったように思います。	1	前期計画の推進においては、本県の地理的状況や地域産業の状況、各ブロックの中学校卒業生数の状況等を踏まえ、教育の質の保証と機会の保障という基本的な方針のもと、生徒にとってより良い教育環境の整備を図ってまいりました。	D（参考）
15	II-3	地域や自治体の意見を丁寧に聞いていただいたことを高く評価いたします。	1	後期計画においては、県立高校の現状と課題を踏まえ、地域における学校の役割を重視した魅力ある学校づくりに向けて、2つの基本的な考え方に基づいて高校再編に取り組みます。	C（趣旨同一）
16	II-3	地域・住民の意見を尊重すること。	3	後期計画の策定に当たり、平成30年12月から令和2年9月にかけて県内9ブロックにおいて地域検討会議や意見交換会等を行い、いただいた高校教育に関する様々な意見を参考に検討を行いました。	C（趣旨同一）

様式第1号（第9関係）

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
17	Ⅱ-3	中学生の進路希望等についてアンケート結果を公表してください。	1	アンケートの集計結果については、「後期計画の策定に向けた地域検討会議（第1回）」の会議資料としており、県ホームページの当該会議に関するページに公開しています。（各ブロックの参考資料 No. 5に掲載しています。）	F（その他）
18	Ⅱ-3	学校別の定員に対する志願者（調整後）の増減数や志望倍率と、中学生アンケートとの違いがあるのか。違いがあれば、進路希望アンケートと志望結果、どこが違うのか公表してください。	1	中学生アンケートでは、進学を希望する学科の種類や学校規模、通学範囲等について調査しており、個別の高校に関する調査は行っていません。なお、現在の設置学科割合については、中学生の希望にほぼ近い状況です。	F（その他）
19	Ⅱ-3	県外入学生受入れ制度の充実を岩手県と市町村が連携して積極的に取り組んでいきたい。	2	県外からの入学志願者受入れについては、地域の将来を担う人材の育成等につながることから、県内生徒の学ぶ機会の確保に配慮すること等、一定の条件のもとで、令和2年度入試から制度化しており、実施している学校が増加しています。	C（趣旨同一）
20	Ⅲ-2	少子化による生徒減少という時代の流れに伴い、学校統合は仕方ないことだと思う。	6	生徒の多様な進路希望の実現、及び地域や地域産業を担う人材育成に向け、中学校卒業生数の減少等に対応した教育環境の整備は喫緊の課題と認識しており、後期計画の着実な推進に取り組んでまいります。	C（趣旨同一）
21	Ⅲ-2	子どもたちが少ない人数で限られた活動しかできない高校生活を送るのであれば、再編により、より多くのことを経験できる環境を作るべきだと思います。多人数の中で、今の状況に合った高校で生活、学ぶためにも再編には賛成です。	1	社会に出る前の人間形成の時期においては、学習や部活動等の様々な選択が可能であったり、生徒間で切磋琢磨する機会が豊富にある等、生徒にとって魅力と活力のある教育環境を整備していくことが必要であると考えます。	C（趣旨同一）

様式第1号（第9関係）

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果（県の考え方）	決定への反映状況
22	Ⅲ-2	盛岡の大規模な学校こそ定員を減らしてほしい。都市部の大きい学校の定員が減らない限り、地方からの流出は増えるばかりだと思います。地域に学校があるということはすごく大事だと聞きます。県内の各地方の衰退を防ぐためにも、盛岡への流出が抑えられるような方向で進めていただきたいです。	4	盛岡ブロックにおいては他のブロックからの、また、盛岡ブロック内においては周辺部からの進学者の流入超過が課題となっていることも考慮し、盛岡ブロックにおける大規模校の統合を図ることとしました。一方で、各地域の小規模校の魅力向上にも努めます。	C（趣旨同一）
23	Ⅲ-2	県や市町村が定める地方創生総合戦略を踏まえ、市町村が将来の地域を担う人材育成の場として、地域が求める学校づくりや、積極的に高校との協働体制を構築できる環境づくりを推進するべきである。	5	後期計画では、地域や地域産業を担う人材の育成等の実現に向け、各自治体が進める「まち・ひと・しごと創生総合戦略」等に基づく地方創生の状況や「第2期岩手県ふるさと振興総合戦略」を踏まえ、学校と地域との連携・協働等による魅力ある学校づくりに取り組みます。また、小規模校において、新たに「高校の魅力化促進事業」を導入しており、地域理解の学習活動等に取り組んでいます。	C（趣旨同一）
24	Ⅲ-3	小規模校の存続を可能としたことは、教育の機会均等や子どもたちの身近な地域での学びを保障するという観点から非常に重要であると考えます。今後も、数ありきではなく、地域住民の声を聴き、連携し合いながら、小規模校存続の取組を望みたい。	19	後期計画期間中においては、1学級校等の小規模な学校を可能な限り維持することで学びの選択肢を確保するとともに、多様な進路希望を実現できる教育環境の整備を図ることとしています。	C（趣旨同一）
25	Ⅲ-3	現在設置されている学科を出来るだけ維持し、通学圏内における多様な学びの選択肢を確保することで、生徒個々の幅広い進路選択に繋げていただきたいと思います。	6	後期計画期間中においては、統合を予定している学校以外の学校の計画的な学級減は行わないこととしており、学びの選択肢を確保するとともに、多様な進路希望を実現できる教育環境の整備を図ることとしています。	C（趣旨同一）
26	Ⅲ-3	単に生徒数を増やすだけの寄せ集め的な統合ではなく、岩手県内の子どもたちが、地域差が無く、地域の状況に応じて平等に同等に3年間学ぶことができるような再編統合にさせていただくことを強く望みます。	4	後期計画の策定に当たっては、県内においてどの地域に居住しても高校教育を受けられる機会の保障や、将来の高校生も充実した高校生生活を送ることができる環境の整備を目指し、検討を重ねました。	C（趣旨同一）

様式第1号（第9関係）

番号	意見箇所	意見	類似意見件数（件）	検討結果（県の考え方）	決定への反映状況
27	Ⅲ-3	工業や農業、福祉等のスペシャリストを輩出するべく、専門教育を充実させることが地域の活性化に繋がると考える。全県的なバランスを考慮しながら設置していただくことを要望します。	4	地域産業を支える人材の育成について高校の持つ役割の重要性や地域からの期待が高まる中、各地域にある現行の多様な分野の学びを確保することにより、生徒が自己の興味・関心に基づく分野を学び、産業人材としての確かな基盤を育成できるよう、教育環境を整備します。	C（趣旨同一）
28	Ⅲ-4	岩手県の教育レベルを維持、向上するためには、学力が低下していないのであれば、学力上位の高校に対しての人員削減はするべきではないと思います。	1	医師や弁護士、研究者・技術者等の専門的知識を持つ人材の育成に向けた学力向上や、産業教育の中心として産業人材の育成に向けた多様な専門教育を担う1学年7学級等の一定の規模のある学校については、その規模を確保し、教育内容の充実を図ることとしています。	C（趣旨同一）
29	Ⅲ-4	不来方高校、南高校ともにスポーツの強豪校として、オリンピック、パラリンピックへの出場者や世界チャンピオンを輩出するなど、岩手のスポーツ界に貢献してきました。この二校を統合して、今までと同じように両校のスポーツの特色を残しつつの統合は不可能です。	7	盛岡南高校と不来方高校の統合新設校においては、スポーツ、芸術、外国語等に関する多様な学びを確保しながら、より幅の広い視野を持ち、本県における各分野の振興に資する人材の育成を目指すこととしています。また、統合により拡大する学校規模を生かし、生徒が学習活動や部活動等において様々な価値観に触れつつ切磋琢磨できる環境を整えるとともに、教員の充足により、一層の指導力の向上を図ることも可能であると考えています。スポーツや芸術活動等における全国レベルでの実績を挙げながら、生徒の多様な進路希望にも応え、本県の特色ある教育を牽引する学校として整備を図ってまいります。	E（対応困難）
30	Ⅲ-4	盛岡市にはいろんな高校があるのだから、様々な高校の学級数を減らすだけで良いのではないか。既存の学科・コースや総合学科の見直しをしながら学級数を調整すれば、統合は不要である。	5	盛岡ブロックにおける中学校卒業生数の減少に応じて実施してきた学級減により、学校規模の縮小が進んでおり、さらに学級減を行う場合、教員配置数の減少や専門高校の学科削減等により生徒の多様な進路希望に対応することが困難になるほか、部活動の減少により学校活動の活力の低下が懸念される等、様々な課題が生じる恐れがあるものです。	E（対応困難）
31	Ⅲ-4	盛岡南、不来方両校が互いに歩んできた歴史を大切にしつつも、校名や校歌等を刷新しながら、統合というより学校を新設するという考え方で議論を進めていくのが良い。	4	盛岡ブロックにおける再編計画では、令和7年度に盛岡南高校と不来方高校を閉校し、体育、芸術等に特色ある教育を実践する学校規模の大きさを生かした発展的な統合により、両校の歴史や実績を引き継ぎ、さらに先導的な実践に取り組む新たな学校を設置することとしています。校名や校歌等については、今後、両校の関係者等を構成員とする統合検討委員会を設置し、検討してまいります。	C（趣旨同一）

様式第1号（第9関係）

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
32	Ⅲ-4	今後の中学生の人数に関するデータや、盛岡市内の高校に希望者が集中していることを考えれば、合併はやむを得ないことかと思えます。盛岡南と不来方の統合を機に、スポーツ分野や芸術分野の活動環境を一層充実させ、新たな魅力を有した新たな学校を設置してはいかがでしょうか。	3	盛岡南高校と不来方高校の統合新設校においては、スポーツ、芸術、外国語等に関する多様な学びを確保しながら、より幅の広い視野を持ち、本県における各分野の振興に資する人材の育成を目指すこととしています。また、統合により拡大する学校規模を生かし、生徒が学習活動や部活動等において様々な価値観に触れつつ切磋琢磨できる環境を整えるとともに、教員の充足により、一層の指導力の向上を図ることも可能であると考えています。スポーツや芸術活動等における全国レベルでの実績を挙げながら、生徒の多様な進路希望にも応え、本県の特色ある教育を牽引する学校として整備を図ってまいります。	C(趣旨同一)
33	Ⅲ-4	水沢工業高校は水沢・金ヶ崎地区のものづくり産業界を、一関工業高校は一関・千厩地区の産業を支えており、それぞれの特徴を活かした工業高校での存続を要望します。	6	今後も中学校卒業生数の減少が見込まれる中、このまま水沢工業高校と一関工業高校を維持した場合、将来において学級減を伴う学科改編の可能性もあり、両校の特徴的な学びが整理されることから、後期計画後も見据え、県南地域に工業高校を新設する計画としたものです。新設校においては、現在の機械、電気・電子、インテリア、設備システム、土木の5学科に加え、時代に対応したIT等に関連した新しい学科を取り入れ、6学科の多様な工業の学びを配置することにより、産業人材の様々なニーズに対応した、地域や地域産業を担う人材の育成を図ってまいります。	E(対応困難)
34	Ⅲ-4	胆江地区の高校再編については、現状を理想としますが、同種の学校の統合ではなく、生活圈を考えた統合にすれば良いのではないかと思います(通学とかお金の問題)。水沢工業高校と水沢商業高校の統合の方が現実的だと思います。	2	胆江ブロック内で、中学校卒業生数の減少に応じて専門高校の再編を行う場合、現行の学科の減少を伴う統合となることが想定され、生徒の多様な学びの選択肢の確保に課題を伴う可能性があります。本計画では、水沢工業高校と一関工業高校の統合により、工業に関する様々な学びの確保を図るとともに、IT等に関連した新たな学科の設置も検討することとしたものです。	E(対応困難)
35	Ⅲ-4	県南地域の統合について、自分が育った校舎が無くなるのは悲しいが、少子化なのでやむを得ない。生徒たちが今よりも設備が整った施設で学ぶことができ、交通の便が良ければいいと思う。	8	県南地域に設置する統合新設校においては、校舎の新設や施設設備の更新とともに、時代に対応したIT等に関連した新たな学科も含めた6学科の配置を想定しています。統合校の設置場所は現時点では未定ですが、ブロックを越えた広域の統合となることから、通学の利便性と合わせ、充実した教育活動ができる環境を整備するという観点により検討してまいります。	C(趣旨同一)

様式第1号（第9関係）

番号	意見箇所	意見	類似意見件数（件）	検討結果（県の考え方）	決定への反映状況
36	Ⅲ-4	宮古商業高校と宮古工業高校の統合するにあたり沢山の労力がかかっているのに、また数年後に宮古水産高校との統合を行うのは、働き方改革にも逆行している。	2	宮古地区の再編については、地域からの提案を踏まえ、宮古水産高校と宮古商工高校の校舎等を同一校地内に集約して供用化を図る等、一体的に整備する内容に修正しました。	B（一部反映）
37	Ⅲ-4	宮古商業高校と宮古工業高校の統合をせずに学級減で対応し、その後、宮古水産高校を含めた3校の統合で良かったのではないか。	1	宮古地区の再編については、地域からの提案を踏まえ、宮古水産高校と宮古商工高校の校舎等を同一校地内に集約して供用化を図る等、一体的に整備する内容に修正しました。	E（対応困難）
38	Ⅲ-4	宮古商業高校、宮古工業高校、宮古水産高校の3校が統合しても通用する学校名を望む。	1	宮古地区の再編については、地域からの提案を踏まえ、宮古水産高校と宮古商工高校の校舎等を同一校地内に集約して供用化を図る等、一体的に整備する内容に修正しました。	F（その他）
39	Ⅲ-4	二戸地区の再編による統合に関しては反対ではありません。生徒のことを第一に考えれば良いことです。	4	二戸地域における少子化の状況を踏まえた教育環境の整備、並びに地域産業を担う人材や高齢化社会に対応した介護福祉人材等の育成に向けた教育環境の整備を図るため、二戸ブロック内の各専門分野に関する特色ある学科等の機能を有する福岡工業高校と一戸高校を統合し、地域の将来を見据えた専門教育の拠点となる魅力ある学校として再編します。	C（趣旨同一）
40	Ⅲ-4	二戸地区の統合について、学校間のスクールバスなどアクセスの確保をしつつ、キャンパス制などを活用してできるだけ地域に高校生の姿がみえるような方策を期待します。	1	福岡工業高校と一戸高校の統合に当たっては「校舎制」の形態を想定しており、両校の既存の校舎及び施設等の有効活用を図ります。	C（趣旨同一）

様式第1号（第9関係）

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果（県の考え方）	決定への反映状況
4 1	Ⅲ-4	福岡工業高校の卒業生は、工業系の技術者として各方面で活躍されております。また、地域産業の牽引役として事業はもとより地域振興など幅広く社会貢献されている経営者もおられます。当管内には唯一の工業高校であり、地元企業では毎年卒業生の就職採用を見込んでいる事業者も数多くあり、地域経済を担っていただいているところでもあります。現在地における福岡工業高校の存続を願うものです。	9	福岡工業高校と一戸高校の統合に当たっては、現在、福岡工業高校で行われている工業の学びを、統合校に設置する工業学科のコースで維持することとしており、これまでと同様に電気と機械に関する専門知識を備えた人材育成に取り組むこととしています。また、両校の校舎を活用した「校舎制」の形態を想定しており、工業の学習においては、現行の福岡工業高校の校舎を使用します。	E（対応困難）
4 2	Ⅲ-4	福岡工業と一戸高校の統合を聞き、ショックを受けています。盛岡みたく支援学校二戸分教室の生徒が増えている中、支援学校の設立（建設）の前に福岡工業の校舎の建て替え、それに続き統合とはどういうことなのでしょう。一戸高校の校舎も建替えて十数年しか経っていない校舎でまだ新しい方だと思いますがどちらかの校舎は無駄になります。二戸地区における特別支援教育の環境改善を望みます。	1	福岡工業高校と一戸高校の統合に当たっては「校舎制」の形態を想定しており、両校の既存の校舎及び施設等の有効活用を図ります。また、岩手県立特別支援学校整備計画（令和3年度～令和10年度）では、二戸地区に点在している特別支援学校分教室を一貫校として集約し、小・中・高等部一体型の県立特別支援学校を整備し、計画期間中の可能な限り早期に開校を目指すこととしています。	C（趣旨同一）
4 3	Ⅲ-5	1学級校の存続を認めていただいたことに感謝申し上げます。	1	本県においては、1学級校の存在が地方創生の推進に大きな役割を果たしている地域もあり、このような地域においては、所在する自治体と連携した教育活動の充実が進められている現状にあることから、一定の入学者のいる1学級校を維持することとしました。	C（趣旨同一）
4 4	Ⅲ-7	今後の生徒数の動態を見ると、県下高等学校の在り方も現状を維持、継続することが難しいことはよく理解しております。単なる数合わせにせず、地域を担う人材育成に必要なコンセプトを持った高校づくりを考えていただければと思います。	1	後期計画においては、県立高校の現状と課題を踏まえ、地域における学校の役割を重視した魅力ある学校づくりに向け、「生徒の希望する進路の実現」と「地域や地域産業を担う人づくり」という2つの基本的な考え方に基づいて高校再編に取り組めます。	C（趣旨同一）

様式第1号（第9関係）

番号	意見箇所	意見	類似意見件数（件）	検討結果（県の考え方）	決定への反映状況
45	IV-2	総合学科に対して、地域からは、中途半端な専門教育や地元が求めている高校の姿と違うのではとの意見がある。地域が求めている高校としての再検討を急ぐ必要がある。	2	後期計画期間中においては、各ブロックにおける学校規模をできる限り維持し、地域の多様な専門的な学びを維持するという総合学科高校が設置された経緯を踏まえつつ、教育内容の充実を図ってまいりたいと考えています。後期計画期間後においては、将来のさらなる生徒数の減少を踏まえ、ブロックを越えて専門分野を集約する大規模な統合等も含めて検討を進めていく必要もあると考えています。	C（趣旨同一）
46	IV-2	実業高校を減らすのではなく、普通高校の学級数を減らす方が良いと思います。	1	募集定員の削減により、学校規模が縮小して学校活動に制約を受けたり、専門高校においては学びの多様性の維持が困難になったりする場合があることから、後期計画期間中においては、各ブロックにおける学校規模をできる限り維持することとしました。	C（趣旨同一）
47	IV-2	普通科と専門学科が併置されている小規模校や、定員充足率が低い総合的な専門高校は、総合学科への再編を検討すべき。	1	後期計画期間中においては、各ブロックにおける学校規模をできる限り維持し、専門学科及び総合学科における多様な専門分野を維持したうえで、教育内容の充実を図ってまいりたいと考えています。後期計画期間後においては、さらなる生徒数の減少を踏まえ、ブロックを越えて専門分野を集約する大規模な統合等も含めて検討を進めていく必要もあると考えています。	C（趣旨同一）
48	IV-2	生徒減少がさらに進むことは明白ですが、気仙地方には現状の4校がバランスよく位置づいていくことを願っています。	1	後期計画期間中においては、各ブロックにおける学校規模をできる限り維持し、専門学科及び総合学科における多様な専門分野を維持したうえで、教育内容の充実を図ってまいりたいと考えています。後期計画期間後においては、さらなる生徒数の減少を踏まえ、ブロックを越えて専門分野を集約する大規模な統合等も含めて検討を進めていく必要もあると考えています。	C（趣旨同一）
49	IV-2	二戸地区で学校統合をするならば、福岡高校と福岡工業高校を統合し、併せて商業科を復活させ、福岡商工高校として発展させていくことを検討していただきたい。	4	二戸ブロックにおける再編計画は、地域や地域産業を支える人材を育成する教育環境の確保に向け、福岡工業高校と一戸高校の統合により、地域の将来を見据えた専門教育の拠点となる学校の整備を図るものです。	E（対応困難）
50	その他	小規模校においても教職員を充実させ、生徒の学習環境の充実、教員の負担軽減を図ってほしい。	11	小規模校に対しては学校の状況を考慮した教員配置を行っているほか、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等により、教職員のサポートを行っております。また、ICT機器の整備や遠隔教育の推進等により、生徒の学習環境の整備も進めています。	C（趣旨同一）

様式第1号（第9関係）

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
51	その他	私立高校の定員超過是正や、盛岡市立高校の学級減はできないものか。	2	岩手県私学協会と定期的に会議の場を設け、県立高校の再編の取組について説明し理解を求めています。また、地域検討会議には盛岡市も参加しており、今後においても盛岡ブロックの高校の在り方について、意見交換を図ってまいります。	D(参考)
52	その他	それぞれの地域の特色や産業を生かしながら、子どもたちがまちづくり、地域づくりに参画できるような学科・コースの設置を検討してもらいたい。	2	1学年3学級以下の県立高校を対象として令和2年度から取り組んでいる「高校の魅力化促進事業」では、学校と地域が連携し、地域課題の解決や地域振興に向けた取組など、地域理解の学習活動の充実等を通じて生徒の自己有用感を育み、地域や地域産業を担う人材の育成に向けた取組を展開しています。今後は、対象となる学校の拡大も検討していきます。	C(趣旨同一)
53	その他	高等学校を、さらに地域社会の人づくりの学びの場、第一線を退いた方々の学び直し場の場として、世代間共学の場「高等学校」として機能を拡張してはいかがでしょうか。	2	後期計画において統合対象となっている学校においては、学校と地域や地域産業との連携を強化し、新たに整備した施設設備を積極的に地域へ開放し、人材育成等に向けた取組を行うことを検討しています。	C(趣旨同一)
54	その他	高校再編の枠にとらわれず、県立の学校をいかに良くしていくのかご検討願います。二戸地区の障がいを持った子どもたちが安心して通うことのできる学校を設置することを心から願います。	2	岩手県立特別支援学校整備計画(令和3年度～令和10年度)では、二戸地区に点在している特別支援学校分教室を一貫校として集約し、小・中・高等部一体型の県立特別支援学校を整備し、計画期間中の可能な限り早期に開校を目指すこととしています。	C(趣旨同一)
55	その他	不来方にしても南にしても、学校の周りは交通量がある場所なので、街灯の設置を希望します。	1	当該校においては、引き続き登下校時の交通安全指導等に取り組んでまいります。	F(その他)
56	その他	将来、学生がどんなことを学び、何の仕事に就くか、目的を持って進路を選択できるよう、将来像を持つ教育があってほしい。	1	地域社会に貢献する意識を醸成する教育を推進し、将来、地域で活躍し、地域を支える人材を育成していくことが重要であると考えており、それに向けて、地域資源を活用した取組等により地域社会の魅力を伝え、自立した社会人・職業人として必要となる能力や、主体的に進路を選択できる能力を身に付けることができる教育環境を整備してまいります。	C(趣旨同一)

様式第1号（第9関係）

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
57	その他	小規模でも良いと考えるが、学力は、県内全国と比較し、競争意識を常に持つ取組が望ましい。	1	生徒の希望する進路の実現に必要な学力を身に付けられたり、生徒が相互に切磋琢磨することによって、主体的に進路を選択できる能力を身に付けることができる教育環境の整備が必要であると考えています。	C(趣旨同一)
58	その他	全日制の最終倍率を1.0以上にし、落ちた生徒は定時制や県内外の私立が受け皿となるのが望ましい。	1	後期計画においては、少子化の状況に応じた県立高校の募集定員の適正化とともに、県内のどの地域に居住していても高校教育を受けられる機会の保障と、将来の高校生も充実した高校生活を送ることができる教育環境の整備を目指しました。	D(参考)
59	その他	そもそも公立(高校)を減らさない方が子育てしている人は生活面でも助かるのではないのでしょうか。	1	公立高校、私立高校ともに、岩手県における公教育を担っていることから、県内のどの地域に居住していても高校教育を受けられる機会の保障や、将来の高校生も充実した高校生活を送ることができる環境の整備に向け、公立と私立が協力していくことが肝要であると考えます。なお、令和2年4月から高等学校等就学支援金制度が改正されたことにより私立高校における授業料実質無償化が図られ、私立高校に通う生徒・保護者の経済的負担が軽減されているところです。	D(参考)
60	その他	少子化により学校が成立しえない地域が今後多く出てくると見込まれることから、通信制高校を発展的に拡充し、インターネットスクールの形で、生徒が自宅でパソコンを介して双方向に授業が受けられるシステムの開発・構築を強く要望します。	1	国のGIGAスクール構想を踏まえ、県立高校において、1人1台端末、無線LAN環境及び大型提示装置等のICT機器整備を進めているところであり、学校と家庭をつなぐオンライン学習や、ネットワーク構築による遠隔教育等の充実に向け、学習グループウェアを活用したオンライン学習や、小規模校への遠隔教育の推進等の取組を進めているところです。今後も国の動向を注視しながら、ICT等を活用した学びの保障に取り組んでまいります。	C(趣旨同一)
61	その他	入学者が減少し、再編が想定される学校には、予め県または市町村から職員を配置し、問題点を分析して対策を打つべきだと思います。	1	県内の中学校卒業業者数は、平成の30年間で半減しており、少子化の状況に対応した県立高校の募集定員の適正化が課題となっています。県内各地域の小規模校において欠員が多い状況を踏まえ、令和2年度から「高校の魅力化促進事業」を行い、志願者の増加を図る取組を推進しています。	C(趣旨同一)

様式第1号（第9関係）

番号	意見 箇所	意見	類似意見 件数（件）	検討結果（県の考え方）	決定への 反映状況
62	その他	<p>基本的・根本的な考え方として、防災の視点がこの計画には欠落しています。地球温暖化に伴う集中豪雨の増加によって、盛岡市内の盛岡第一、盛岡第二、盛岡南といった高校では、完全水没が既に想定されています。まず、水没が想定されている高校を盛岡地域を中心に統合移転させ、しかる後に小規模校をどうするかを計画するべきです。</p>	1	<p>各県立学校においては、近年の大規模災害等の状況に鑑み、危機管理マニュアルの作成及び見直しを行っており、生徒の安全確保に取り組んでいます。また、東日本大震災津波の教訓を踏まえて作成した副読本等を活用しながら、災害発生時における生徒の安全教育にも取り組んでいます。</p>	F（その他）

意見検討結果一覧表

（案名： 新たな県立高等学校再編計画後期計画 ）

※ 一覧表への記載区分について

1 「意見箇所」欄

新たな県立高等学校再編計画後期計画は次の構成となっており、「意見箇所」欄には提出された意見への関連が強い章、項目を記載し、意見の対応箇所を明確にしています。本表と比較して御確認ください。

はじめに

I 平成28年3月策定「新たな県立高等学校再編計画」の概要

- 1 再編計画策定の経緯
- 2 再編計画の期間
- 3 再編計画の基本的な考え方
- 4 学校・学級の規模
- 5 通学等の支援

II 前期計画（平成28年度～令和2年度）について

- 1 前期計画の推進状況
- 2 前期計画の評価
- 3 後期計画の策定に向けた主な取組

III 後期計画（令和3年度～令和7年度）の方針

- 1 高等学校教育を取り巻く状況
- 2 県立高等学校の現状と課題
- 3 後期計画の基本的な考え方
- 4 後期計画の具体的な取組
- 5 周辺の高校への通学が極端に困難な学校の取扱い
- 6 岩手県立高等学校の管理運営に関する規則の適用
- 7 後期計画期間後の再編の方向性

IV 後期再編プログラム

- 1 令和3年度から令和7年度における全体プログラム
- 2 ブロック別プログラム
- 後期再編プログラム総括表

2 「決定への反映状況」欄

次に掲げる区分を記載しています。

区 分	内 容
A（全部反映）	意見の内容の全部を反映し、計画等の案を修正したもの
B（一部反映）	意見の内容の一部を反映し、計画等の案を修正したもの
C（趣旨同一）	意見と計画等の案の趣旨が同一であると考えられるもの
D（参考）	計画等の案を修正しないが、施策等の実施段階で参考とするもの
E（対応困難）	A・B・Dの対応のいずれも困難であると考えられるもの
F（その他）	その他のもの（計画等の案の内容に関する質問等）